

チャペル週報

No.17

2019.10.14 ~ 10.18

秋季宗教運動特集号

だから、わたしたちは落胆しません。

たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、
わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。

(コリントの信徒への手紙二 4章16節)



時計台 (大学博物館)・エンブレム

関西学院宗教センター

☆ チャペル・スケジュール ☆

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

10月14日(月) 神 夏期派遣実習報告 鄭 詩温(神学研究科M1)
経 音楽チャペル ハンドベルクワイア
人 大石 健一(茨城春日丘教会牧師)
理 前川 裕(宗教主事)
聖和 聖書物語「イエスさま、あらしをしずめる」

10月15日(火) 神 愛③ 加納 和寛(神学部准教授)
文 音楽チャペル ゴスペルクワイア "P.O.V."
社 音楽チャペル 聖歌隊
法 木村 仁(法学部教授)
経 井上 智(宗教センター宗教主事)
商 山本 俊正(宗教主事)
国 Chapel in English Christian Morimoto Hermansen (宣教師)
理 前川 裕(宗教主事)
総 津田 睦美(総合政策学部教授)
教 実習をふりかえって(小学校) 則枝 由姫(教育学部4年)
西北 舟木 謙(院長)

10月16日(水) 神 Mission in Dialogue報告
社 わたしにとっての "Mastery for Service"^④ 三浦 耕吉郎(社会学部教授)
法 Christian Morimoto Hermansen (宣教師)
商 井上 智(宗教センター宗教主事)
人 嶺重 淑(宗教主事)
国 音楽チャペル ハンドベルクワイア
理 KSCハンドベル&アンサンブル
総 関西学院大学YMCA神戸三田キャンパス
教 梶原 直美(宗教主事)

10月17日(木) 大学合同チャペル「新しい時代のMastery for Serviceに向けて
-学院創立130周年記念-」 10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂
「困難に出会った時」山口 真史(一般社団法人 new-look代表理事)
神戸三田キャンパス 会場:VI号館101号教室
「Mastery for Serviceを生きる-ベーツ先生の歩みに学ぶ-」
神田 健次(関西学院大学名誉教授、学院史編纂室顧問)
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランパスチャペル
「創立者たちの土台～約束されたもの」
田淵 結(関西学院大学名誉教授、関西学院前院長)

10月18日(金) 大学合同チャペル「新しい時代のMastery for Serviceに向けて
-学院創立130周年記念-」 10:20～11:20
西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂
「Mastery for Serviceを生きる-ベーツ先生の歩みに学ぶ-」
神田 健次(関西学院大学名誉教授、学院史編纂室顧問)
神戸三田キャンパス 会場:VI号館101号教室
「揺るぎない原点をもって生きる」
藤井 理恵(在日南ブレスピテリアンミッション 淀川キリスト教病院 チャプレン)
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランパスチャペル
「困難に出会った時」山口 真史(一般社団法人 new-look代表理事)

◇ランパス早天祈祷会 毎週金曜日 8:20～8:40 ランパス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)
10月18日(金) 国際学部のために 平林 孝裕(国際学部長)

新しい時代を生きる人たちへの奉仕について

山口 真史

私は西宮北口の近くで高校中退や不登校、引きこもりなど、学校教育にはまらなかった人たちのフォローを続けています。今年は7年目になります。

私たちの行いは「見失った羊のたとえ」で聖書に語られる、99匹の羊をおいて1匹の羊を探しに出るようなことだともあります。この羊飼いのように担いで群れに戻すことはしないのですが、当人たちが「この世界でまだ生きていける」と思ってもらえるように、様々な角度からアプローチを続けています。

私たちが会おう当人たちや保護者さんにはいろいろな背景がありますから、いわゆる常識や正論ではうまく進まないことも多いです。なぜなら、世の中の正しさと私たち個人が経験から得てきた正しさ、これからを生きる中退者や不登校生が持つ正しさはそれぞれに全く違うからです。もちろんここで言う「正しさ」は人間として普遍的な正しさという意味ではなく、人生を進んでいくための正解の道ぐらいで読み替えてください。

もちろん、「学校に行くことが正しい」という価値観を持ってパターンリズミックに干渉、指導するような関わりも考えられます。社会の中で集団の秩序を考えた場合そちらが正しい場合もあるでしょう。

しかし、見失った羊は個人として生きています。そのため、「良い学校、いい会社、良い人生」というイメージだけでは、当人たちの歩む道を照らすことはできません。

そして当人たちはいろんな形の情報を持っています。それらの情報は今の権利意識が多様化し社会経済の成長モデルも喪失している社会の中では、全く別の答えを求めているように思います。

学校に行く、行かないに関わらず、どのようにすればこの先の人生を自分らしく、また社会の一員として生きていくことができるのか。

この問いに答えるために、当事者たちに有益な知識や経験はもちろん、それを活かすわざやすべを日々磨き続けなければなりません。

その中で当事者との関係を作っていくわけですが、1対1の関係性だけではなく、自ずと社会との関係も考えなければならないため、社会の流れや今の世の中とも向き合わなければなりません。

この7年の間に、それぞれの当事者たちの苦悩、苦難、葛藤などに向かい合ってきました。

しかし未だ答えはありません。それぞれに用意されて拓かれた道は一人ひとり全く違うものですから。

この変革の過渡期に「奉仕をする」という意味が、改めて問われていると思います。

(一般社団法人 new-look代表理事)

Mastery for Serviceを生きる

—ベーツ先生の歩みに学ぶ—

神田 健次

関西学院は、1889年に米国南メソヂスト監督教会のW.R.ランバス宣教師によって創立されて130周年を迎えました。創立以降、文部省訓令12号による宗教教育禁止を迫る危機を乗り越えた1910年にカナダ・メソヂスト教会が学院の共同経営に参与したことは、学院が飛躍的に発展する大きな契機となりますが、新たに派遣された宣教師の中心がC.J.L.ベーツ先生でした。初代院長ランバス先生については、その著作が翻訳され出版されてきた一方、第四代院長であり、初代学長のベーツ先生については、これまで著作として刊行されることがありませんでしたが、今年の5月、先生が書き残された論考を翻訳してまとめ、『ベーツ宣教師の挑戦と応戦』（関西学院大学出版会）と題する著作として、ルース・M・グルーベル元院長の監修で刊行することができました。この著作の編集に関わったひとりとして、ベーツ先生の歩みの全貌をたどりながら、学院のスクール・モットーMastery for Serviceにこめられたベーツ先生の祈りや思想、その生き方についてあらためて考えられました。

ベーツ先生が提唱したMastery for Serviceというモットーを考える一つの聖書的思想は、どのような人をも大切にする隣人愛（ガラテアの信徒への手紙5章14節）と言えます。例えば、当時、高等教育の可能性が閉ざされていた視覚障がいをもつ学生を日本で最初に受け入れ、多くの視覚障がいをもつ学生の学びの道を拓き、また朝鮮半島からの留学生に温かい態度で接しています。それは、どのような人に対しても同じ目線に立って大切に接する隣人愛の精神であります。その隣人を大切にする精神は、ベーツ先生の思想にもよく現れており、例えば、当時の思想界に影響を与えていた生の哲学やニーチェの哲学とも心を開いて対話を試み、独自の見解を展開しています。あるいは、インドのタゴールの宗教思想を高く評価し、また真言宗の高野山大学と学術交流を重ね、ベーツ先生自身も講演を行い交流したこと等は、いまだ宗教間の対話や交流が希少な時代に先駆的な試みと言えます。さらに、戦時体制の状況において敵国ということでカナダに帰国を余儀なくされてほどなく、ニューヨークにおいて全国向けのラジオ放送で戦争回避の呼びかけを行っています。このようなベーツ先生の平和への祈りと行動は、その生涯を貫流しているものです。Mastery for Serviceにこめられたベーツ先生の歩みの今日的意味を、共に考えてみましょう。

（関西学院大学名誉教授、学院史編纂室顧問）

関西学院創立130周年

田淵 結

今年関西学院は創立130周年を迎えます。その記念の式典や博物館の展示なども行われていますが、そのことをめぐってとても不思議に思われることがあります。これは実は学院創立125周年のときからの疑問なのですが、今年も学院のフェイスブックで創立130周年創立記念日のニュースでバックに使われるのは時計台の風景です。創立当時の学院キャンパスや創立者ランバス先生の写真などは一切ありません。もし創立130周年を本当に記念するのなら、私たちはやはり創立者や創立当時の私たちの先輩たちの存在に思いを寄せ、そこから多くを学ぶべきではないのか、ということなのです。

ランバス先生が学院を創立された1889(明治22)年以後、日本は大日本帝国としてのあり方を本格化させ、大日本帝国憲法発布、翌年の教育勅語を通じ、日本の教育は「よき天皇の臣民」を育む国家主義的な営みとなります。しかしランバス先生は「基督教ノ主義」(学院憲法)という世界に共通する価値観・倫理観にもとづく人格形成に取り組むのです。国家の方針と関西学院などのキリスト教主義学校との違いは大きく、1899(明治32)年に文部省は訓令第十二号を発令し、文部省認定学校における課外活動をも含めた一切の宗教教育を禁止します。そのような国家と関西学院との軋轢のなかに原田時代の関西学院はあったのです。初期の関西学院の創立者や先輩たちが直面した大きな課題、問題、それによって関西学院とは本来どのような学校であるべきなのかという熱心な問いかけがあったことは、時計台のポスターからはなかなか読み取れないのではとと思っています。

関西学院が私学として130年の歴史を歩んできたこと、その最初に創立者たちが「キリスト教主義」という言葉を用いたこと、それは私たちは国公立の学校とはことなる独自の建学の理念を持つ教育機関だということです。そして最初期の神学部・普通学部、さらに中学部、高等(学)部からやがて大学へと展開していった学院の歩みは、今学院に属するすべての教育機関さらに同窓会をも含めて、関西学院教育の全体があることをも考えさせられます。

We are Kwansei !

(関西学院大学名誉教授、関西学院前院長)

揺るぎない原点をもって生きる

—新しい時代のMastery for Serviceに向けて

藤井 理恵

様々な時代の中で関西学院はMastery for Serviceを掲げ、キリスト教に基づく教育機関として130年の時を刻んできました。私は他大学を卒業し、社会人として働いた後にこの関西学院神学部で学んだ卒業生です。現在は病院のチャプレンとして病む方、死を迎える方々の心やたましいのケアに携わっています。学生時代、社会人生活、そして病院臨床の場と、どの時代や場所においても耳にするのは「生きる意味」「人生の意味」への問いかけです。

現代は多くの人が「do」を求める社会です。どれだけのことを成し遂げたかが求められ、そこでは、存在すること「be」に価値を見出すことが難しくなっています。しかし、人はいつまでも何かをし続けることはできません。誰もが例外なく死を迎え、最後は「何もできない」人になります。この時「do」こそが大切とする価値観は、「be」でしかない自分を苦しめます。病院でもこの苦しみの叫びを何度も聞いています。

「自分の人生に意味があるのか」と問う時、そこには前提—意味のある人生と意味のない人生がある—があります。しかし、聖書には、神が人を創造し“極めて良し”とされたこと、また神がその鼻に命の息を吹き入れて人は生きる者となったことが記されてあります。人は自分で自分を創り出したのではなく、神によって創られ、命を与えられ“良きもの”としてここに置かれた存在です。そうであれば、私たちの命も人生も、すでに意味そのものなのです。私たちの「be」はそのままで肯定されており、そこにはどんな自己否定も入り込む余地はありません。「be」そのものを愛する神は、人が生きていく上でおかしてしまう過ちも汚れも、すべてご自身が十字架で清算し、人にはどこまでも生きることを願われています。生きていくその過程でこそ、人は生きる意味に気づかされていくからです。

「be」そのものが尊い—この原点を持つ時、人は周りの求めや評価に翻弄されずに、自分を生きていくことができるでしょう。変わりゆく時代の中で、私たちはMastery for Serviceを模索します。しかし、時代が新しくなってもMastery for Serviceを担うのが「人」であることは変わりません。担う私たちが、まず神に肯定されていること、そして仕える相手も神に肯定された尊い存在であること、この揺るぎない原点に立つなら、どの時代においても関西学院の担うMastery for Serviceの在り方はおのずと見えてくると信じています。

(在日本南プレスビテリアンミッション 淀川キリスト教病院 チャプレン)

●大学院チャペル

関西学院では独立大学院の方を中心に毎週金曜日10:35~11:05にチャペルアワーを開催しています。大学院生にかかわらず、どなたでもご自由にご参加ください。

場所:大学院一号館205教室

10月11日(金) 建学の精神 小川 晃司(文学部事務長)

25日(金) 建学の精神 小見 のぞみ(聖和短期大学宗教主事)

11月8日(金) 感謝 田 禾(経済学部教授)

●オルガン音楽の泉 2019 Fall semester

パイプオルガンの響きに憩うお昼のひとつ、どなたでもご自由にお楽しみください。

第34回 10月15日(火) 朴 秀美(カトリック芦屋教会オルガニスト)

第35回 11月29日(金) 椎名雄一郎(活水学院オルガニスト)

第36回 12月13日(金) 能島 亜未(本学オルガン講師)

いずれも12:50~13:20[開場12:40予定]

ところ: 関西学院中央講堂(125周年記念講堂)

主 催: 宗教センター

●西宮北口キャンパスチャペル

阪急西宮北口駅隣接の「関西学院大学西宮北口キャンパス」では、月一回、火曜日にチャペルアワーを実施しています。どなたでもご自由にご参加ください。(10:35~11:05)

10月15日(火) 舟木 讓(院長)

11月12日(火) 中道 基夫(神学部教授)

12月10日(火) 岩野 祐介(神学部教授)

関西学院大学西宮北口キャンパス

(阪急西宮ガーデンズゲート館8階:阪急西宮北口駅東改札すぐ)

※同じ日程・場所で11:15~12:45にRCCキリスト教講座を開講しています

(参加費無料・申込不要)

お問い合わせ:関西学院大学キリスト教と文化研究センター tel(0798)54-6019

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローチタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。

【どなたでもご自由にご参加ください。】(17:50~18:20 1405教室)

10月主題:「イエスのたとえ話に学ぶ」

10月17日(木) 山本 俊正(宗教総主事)

24日(木) 山本 俊正(宗教総主事)

31日(木) 村瀬 義史(総合政策学部宗教主事)

11月主題:「共に生きる世界は可能か」

11月7日(木) 嶺重 淑(大学宗教主事)

14日(木) 嶺重 淑(大学宗教主事)

21日(木) 井上 智(宗教センター宗教主事)

28日(木) 山本 俊正(宗教総主事)

●関西学院会館ベーツチャペル日曜礼拝のご案内

授業期間中の第二・第四日曜日(原則)に、教職員と学生有志による礼拝が行われます。どなたでも(クリスチャンでなくても)参加できますのでどうぞお越しください。

10月27日(日) 10:00~11:00

11月10日(日) 10:00~11:00「永眠者記念礼拝」

11月24日(日) 10:00~11:00「収穫感謝礼拝」

12月15日(日) 10:00~11:00「クリスマス礼拝」

関西学院会館ベーツチャペル

●「関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール」チケット販売のお知らせ

恒例の関西学院最大のクリスマスページェントを大阪のザ・シンフォニーホールで開催いたします。参加費(入場料)は宗教活動委員会を通して関連団体に献金させていただきます。

と き: 12月17日(火)17:30開場 18:30開始 21:00終了予定

ところ: ザ・シンフォニーホール(大阪市北区大淀南2-3-3)

参加費(入場料): 2,100円 当日座席指定(16:30より座席券と交換)

チケット販売(10/7発売開始):

* 関西学院大学生協 (tel.0798-53-5150)

* チケットぴあ Pコード 164-585

* ぴあ取扱いのコンビニエンスストア:ファミリーマート、セブン・イレブン

* ザ・シンフォニーチケットセンター(ザ・シンフォニーホール内)

お問合せ: 関西学院宗教センター (tel.0798-54-6018)

主 催: 関西学院

共 催: 関西学院後援会・関西学院同窓会

◆CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

◆使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

◆盲導犬育成のためご協力お願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。